

関節リウマチの症状と診断

関節リウマチとは(1)

いくつもの関節が炎症(腫れや痛み)を起こす病気です。

リウマチ関節炎の特徴

- ①左右対称性
- ②多発性
- ③慢性
- ④朝のこわばり

➡ **関節の破壊
関節の機能障害**

関節リウマチとは(2)

関節以外にもリウマチの炎症が及びます。

全身症状
微熱、貧血、身体のだるさ

眼 強膜炎

心臓 心筋炎、心嚢炎

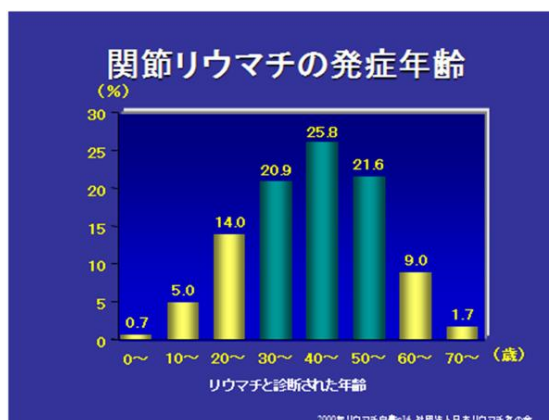
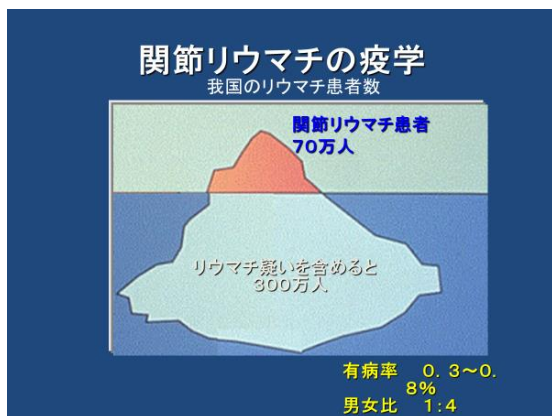
皮膚 リウマトイド結節

骨 骨粗鬆症

神経 神経炎

肺 間質性肺炎

腎臓 アミロイドーシス



診断については、下記診断基準により早期の診断・治療を行い寛解(痛み・腫れなどの症状がなくなる状態)を得ることが大切です。診断・治療が遅れるとリウマチ薬の効きが悪くなります。

関節症状(腫脹または圧痛)(0-5点)	スコア
1 大関節	0
2-10 大関節	1
1-3 小関節(大関節は含めない)	2
4-10 小関節(大関節は含めない)	3
>10 関節(少なくとも1つの小関節)	5
血清学的反応(0-3点)	
リウマトイド因子陰性およびACPA陰性	0
リウマトイド因子低値陽性またはACPA低値陽性	2
リウマトイド因子高値陽性またはACPA高値陽性	3
罹病期間(0-1点)	
<6週間	0
≥6週間	1
急性期タンパク(0-1点)	
CRP正常およびESR正常	0
CRP異常またはESR異常	1
ACPA: 抗CCP抗体	
スコア合計≥6: RAと診断	
スコア合計が<6の場合は以下のように基準を満たす可能性がある	
→経過の中で将来満たす	
→過去のこれら4つのパラメータのデータが記録されていた場合に満たす	

(文献^{4,5)}より改変)